

# 県内の情報連絡員報告 令和8年9月

石川県中小企業団体中央会

## 総括

DI値で見ると、前月との増減では、全体9項目中、**3項目が上昇、4項目が横ばい、2項目が悪化**となった。在庫数量や販売価格、業界の景況が改善した一方、売上高や資金繰りは悪化した。原材料・燃料価格や人件費の上昇、人手不足などが経営上の課題となっている。

**製造業**では、9項目中、4項目が上昇、2項目が横ばい、3項目が悪化となった。半導体・AI、建設機械関連の受注が堅調な一方、資材調達難や人手不足、原材料価格の高騰が収益確保の重荷となっている。**悪化していた業種**は、着物のフォーマル品の売上減少が続き、受注・生産の回復が見通せない**その他の織物業（染色加工）**や、新規受注が少なく職人に回る仕事も限られている**漆器製造業（能登方面）**などであった。一方、**好調であった業種**は、公共事業や産業用地造成を背景に売上高が前年同月の約3.1倍となった**砕石製造業**や、半導体・AI関連、建設機械関連等の受注が堅調な**機械金属、機械器具の製造又は加工修理業**などであった。

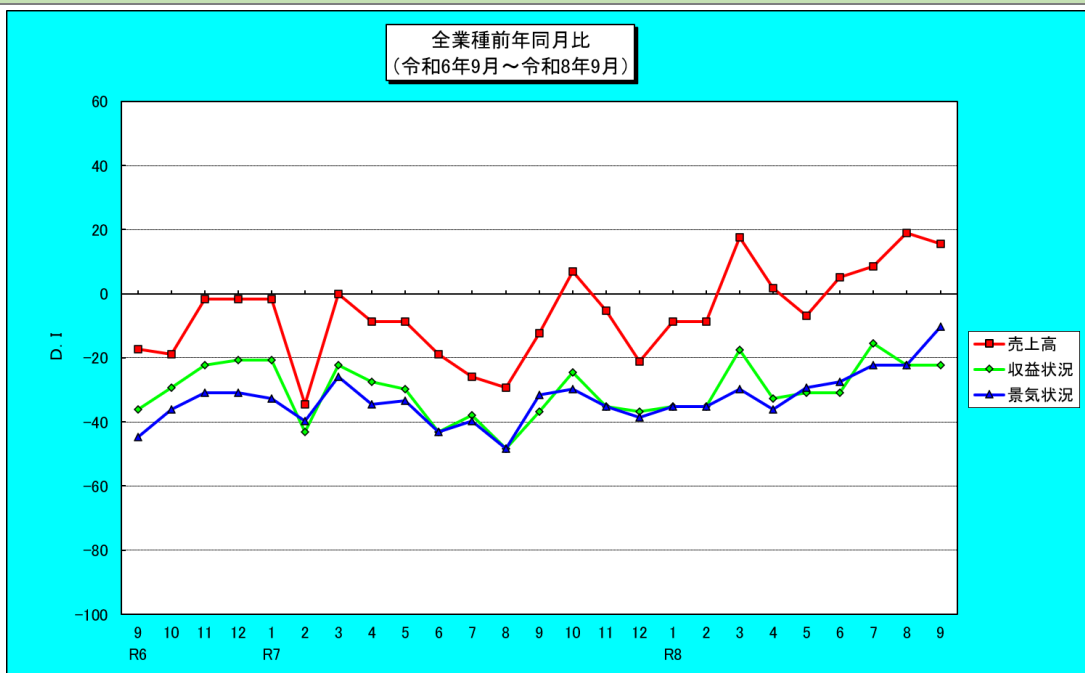
**非製造業**では、8項目中、4項目が上昇、1項目が横ばい、3項目が悪化となった。取引条件や収益状況、業界の景況が改善した一方、売上高、資金繰り、雇用人員は悪化した。**悪化していた業種**は、原油コストの上昇やガソリン販売量の減少、価格競争により売上高・収益ともに悪化した**燃料小売業**や、運行情、売上高ともに前年同月比約10%減少した**一般貨物自動車運送業**などであった。一方、**好調であった業種**は、抹茶価格の高騰やインバウンド需要を背景に売上高が好調に推移した**茶類小売業**や、シルバーウィーク期間の宿泊需要に加え、台湾や韓国などアジア方面からのインバウンド宿泊客が好調に推移した**旅館、ホテル（加賀方面）**などであった。

## 前月比のDI値

| 項 目   | 全体DI  |         | 製造業DI |         | 非製造業DI |         |
|-------|-------|---------|-------|---------|--------|---------|
| 売上高   | 15.5  | (▼ 3.5) | 25.8  | ( 0.0)  | 3.7    | (▼ 7.4) |
| 在庫数量  | -2.1  | ( 10.7) | -12.9 | ( 9.7)  | 18.8   | ( 12.5) |
| 販売価格  | 37.9  | ( 3.4)  | 41.9  | ( 6.4)  | 33.3   | ( 0.0)  |
| 取引条件  | -5.2  | ( 0.0)  | -6.5  | (▼ 9.7) | -3.7   | ( 11.1) |
| 収益状況  | -22.4 | ( 0.0)  | -25.8 | (▼12.9) | -18.5  | ( 14.8) |
| 資金繰り  | -13.8 | (▼ 3.5) | -9.7  | (▼ 3.2) | -18.5  | (▼ 3.7) |
| 設備操業度 | 12.9  | ( 0.0)  | 12.9  | ( 0.0)  | -      |         |
| 雇用人員  | -13.8 | ( 0.0)  | -16.1 | ( 6.5)  | -11.1  | (▼ 7.4) |
| 業界の景況 | -10.3 | ( 12.1) | -6.5  | ( 6.4)  | -14.8  | ( 18.5) |

※1：( ) 内の数字は前月とのポイント差 (▼は減少) ※2：設備操業度は製造業のみ

## 全業種の前年同月比推移



## <製造業>

| 集計上の<br>分類業種 | 具体的な業種               | 組合及び組合員の業況等                                                                                                                                                                                             |
|--------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食料品          | 調味材料製造業              | 9月の売上高は前月の反動もあり約1割減少し、低調に推移した。付加価値型商品は微増と堅調であったものの、主力製品が振るわなかった。一方、上半期の売上高は前年同期比4%増となった。                                                                                                                |
|              | パン・菓子製造業             | 夏休み期間は学校給食等の供給がなく収入が減少するため、年間を通じた契約等の確保を望む声がある。また、米不足による米価格の上昇を受け、パンへの需要シフトがみられた。                                                                                                                       |
|              | パン・菓子製造業             | 原材料費や燃料代の度重なる上昇に対し、企業努力を続けているものの、売上高に変化がないため収益状況は悪化している。今後も価格上昇が続けば、年末までに販売価格を値上げせざるを得ない状況となっている。                                                                                                       |
| 繊維工業         | 織物業                  | 主力のインテリア・カーテンの受注が低迷しているほか、輸出についても中東情勢の緊迫化により先行きが不透明となっている。また、好調であったスポーツ衣料・アウトドア用途の製品にも一服感がみられる。民族衣装用途では、中国勢の攻勢や流通在庫の増加により、減産・生産調整を余儀なくされている。                                                            |
|              | 織物業                  | 前年同月比で、生産は絹織物が8.5%減少した一方、合繊が11.5%増加し、全体では11%の増加となった。一方、絹織物の生産は低調であり、収益状況も厳しい状況となっている。                                                                                                                   |
|              | 織物業                  | 本県の織物生産高は13カ月連続で前年を下回った。品種別では、ナイロンが前年対比1.7ポイント増加した一方、ポリエステルは2.0ポイント減少し、織物全体では0.4ポイントの減少となった。                                                                                                            |
|              | その他の織物業<br>(染色加工)    | 売上高は前年同期比で40%を超える減少となり、収益状況も厳しい。受注・生産の減少が続いており、回復の見通しは立っていない。着物全体でフォーマル品の売上減少が続いており、事業形態の見直しが課題となっている。                                                                                                  |
|              | ねん糸等製造業              | 売上高は横ばいで、微増した企業もみられるものの、収益状況は悪化している。要因として、電気代の高騰や人件費の上昇が挙げられる。                                                                                                                                          |
| 木材・木製品       | 製材業、木製品製造業<br>(加賀方面) | 9月の売上高は前年同月比で約30%増加した。一方、先月に続き中小・小規模工務店では仕事が少ない状況が続いている。中東情勢による供給制限は緩和されつつあるものの、資材価格の上昇は続いており、集成材用接着剤は約20%、乾燥機用重油は約30%、それぞれ価格が上昇したままである。また、住宅価格の上昇を受け、住宅購入者は坪数を減らしたり、2階建てから平屋に変更したりするなど、建築費を抑える動きがみられる。 |
|              | 製材業、木製品製造業<br>(能登方面) | 9月の取扱量は914.803㎡で前年同月比6.6%減、売上高は14,140千円で同4.3%減となった。平均単価は15,458円で前年同月の15,081円を上回った一方、スギは12,739円、アテは20,801円と、いずれも前年同月を下回った。新材は保合いで推移したものの、古い材や災害木は安値での販売となった。                                             |
|              | 製材業、木製品製造業<br>(金沢方面) | 9月は例年やや落ち着く時期であるが、プレカットの稼働率は前月比で微増し、売上高も前年同月比で若干増加した。能登半島地震の復旧・復興住宅に関する案件も増えており、徐々に受注が増加している。                                                                                                           |
| 印刷           | 印刷業                  | 売上高、収益状況ともに好転の兆しはみられない。印刷需要だけに頼ることが難しくなっており、組合員企業では、顧客のニーズに応じて商品やサービスの取扱いを広げ、売上・利益の確保を図る動きがみられる。また、製紙メーカーによる用紙価格の度重なる値上げが印刷需要の下押し要因となっている。官公庁のオープンカウンター方式による印刷発注について                                    |

|         |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                  | は、資材価格が高騰する一方、落札価格が数年前と変わらない状況もみられ、適正な価格での受注が難しくなっている。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 窯業・土石製品 | 砕石製造業            | 9月の出荷量は前年同月比で、生コン向けが12.0%増加した一方、合材用アスファルト向けは25.0%減少し、スポット分を含む全出荷量は1.3%減少した。引き続き、ダンプの確保と人材確保が課題となっている。                                                                                                                                                                                                           |
|         | 陶磁器・同関連製品製造業     | 前年同月比で売上高は減少傾向にある。主な要因として、中国需要の減少に加え、大雨等の自然災害による観光需要の減退が推測される。今後予想される物価高や人件費の増加に伴う価格転嫁についても、不安が大きい状況である。                                                                                                                                                                                                        |
|         | 生コンクリート製造業       | 9月の出荷量は前年同月を上回った。主な出荷先は、能登半島地震の復旧・復興工事、道路・河川改修等の公共工事、ホテル等の建設工事である。                                                                                                                                                                                                                                              |
|         | 砕石製造業            | 9月の売上高は3,930万円で、前年同月の1,250万円から約3.1倍となった。公共事業や産業用地造成による受注が売上増加の要因となっている。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 鉄鋼・金属   | 一般機械器具製造業        | 企業の応需態勢は引き続き高水準で、受注機会も豊富である。一方、深刻な人手不足や資材・部品の調達難、納期遅延等がボトルネックとなっており、一部企業では案件の選別や受注辞退を余儀なくされている。また、景気回復の持続性が見通しにくいことから、設備投資に慎重な企業もみられる。一方、半導体関連は極めて堅調に推移している。                                                                                                                                                    |
|         | 非鉄金属・同合金圧延業      | 金地金価格は高止まりしているものの、足元では下落基調にある。一方、金地金価格の動向は金箔需要の拡大にはつながっておらず、業界全体として厳しい状況が続いている。                                                                                                                                                                                                                                 |
|         | 鉄素形材製造業（鉄鉄鋳物の製造） | 9月の売上高（生産量）は前月比14.1%増加した一方、前年同月比では2.8%減少した。自動車関連、産業機械、インフラ（水道）関連は堅調に推移している。                                                                                                                                                                                                                                     |
|         | 鉄素形材製造業          | 建設機械業界の急激な増産への対応に苦慮しており、特に人手不足が深刻となっている。また、賃上げに伴う残業単価の上昇に対し受注単価が追いつかず、残業による採算確保が難しい状況となっている。物価や長期金利の上昇も続いており、価格転嫁の状況によって中小・零細企業の業績に差が生じることが懸念されている。                                                                                                                                                             |
|         | 一般機械器具製造業        | 建設機械大手メーカーの建設機械・車両の需要は引き続き安定しており、下期も前年を上回る需要が見込まれている。組合員企業では、機種によって受注が増加し、高操業となっている一方、産業機械・工作機械では低操業の企業もみられる。原材料・エネルギー価格の高止まりに加え、人手不足、借入金利や人件費の上昇により経費負担が増加しており、収益性確保に向けた早期の価格転嫁が課題となっている。                                                                                                                      |
|         | 一般産業用機械・装置製造業    | 売上高は回復傾向にあるものの、原材料価格等の高騰により収益状況は依然として厳しい。大型案件では一部に動きがみられ、今後の改善が期待される一方、中小型物件や地方物件は低調な状況が続いている。                                                                                                                                                                                                                  |
| 一般機器    | 機械、機械器具の製造又は加工修理 | 組合員企業の売上高・受注は分野によって差があるものの、全体として概ね堅調に推移しており、大幅に増加している企業もみられる。米国のデータセンター建設や生成AI需要、国内の国土強靱化施策、インドネシアの公共投資再開等を背景に、建設機械、AI・半導体、バイオマス分野の受注が好調で高操業となっている企業がある一方、バス向け受注の移管や自動車業界の生産調整により操業を調整している企業もみられる。収益面では、原油価格の変動等を背景に樹脂などの原材料価格が30～40%高騰し、収益を圧迫している。価格転嫁が進む一方、追加の価格転嫁が難しい状況もあり、人手不足や人材育成、資材・固定費の高騰への対応が課題となっている。 |

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 機械金属、機械器具の製造       | 大きな変動要因はなく、業況は落ち着いた状態で推移している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 繊維機械製造業            | 国内外の AI・半導体関連需要の活発化を背景に、データセンターや半導体関連の素材・加工業務が繁忙となっている。特に中国向けの商談が活発で、工作機械関連も好調に推移している。また、発電、自動車、一般機械関連では設備更新等の需要がみられ、省エネ補助金等の政策効果もみられた。今後も中国の生産体制整備や AI・半導体需要の動向が注目されるほか、発電・自動車・一般機械関連の需要拡大に伴い、関連企業の繁忙が見込まれる。一方、品質管理に加えて納期対応が一層厳しくなることが予想され、素材や前工程の進捗を含めた生産管理が課題となっている。                                                                                                               |
| 機械金属、機械器具の製造       | 世界的な AI 需要の拡大により、半導体関連は多忙な状況となっている。繊維機械関連では、ガラス繊維用機械部品の受注が増加し、堅調に推移している。建設機械、工作機械、自動車関連も取引機種によって差があるものの、全体として上向いている。一方、原材料価格の高騰により収益状況は悪化しており、厳しい状況が続いている。                                                                                                                                                                                                                            |
| 機械器具及び其の他金属製品の製造   | 前月比では、売上高が 4 社、採算性・業績状況が 3 社で改善した一方、前年同期比では業績状況が 2 社で悪化した。見通しは全項目で横ばいとなっている。部門別では、輸送機器が前月比で売上・採算性・業績状況が改善した一方、前年同期比及び見通しでは悪化している。電気機械は概ね横ばいで、前年同期比では従業員数が減少した。チェーン部門は概ね横ばいで、前年同期比の業績状況は改善した。繊維機械は売上・業績状況が前月比、前年同期比、見通しのいずれも改善している。人件費の上昇や人手不足が引き続き課題となっている。                                                                                                                           |
| 機械金属、機械器具の製造       | 建設機械メーカー等からの受注には回復の兆しがみられるものの、コスト高や価格転嫁の遅れにより、受注増加が十分な収益確保につながっていない。また、人手不足や物流問題、人件費・燃料費・車両維持費等の上昇も経営を圧迫している。受注環境には改善の兆しがある一方、企業収益や経営基盤には依然として厳しさが残っている。                                                                                                                                                                                                                              |
| 機械金属、機械器具の製造又は加工修理 | 売上高は前年同月比で 2 桁増を継続しており、直近 2 カ月は 20% を超える増加となっている。主取引先では 11 月にかけて増産が継続する見込みで、本年度の売上高も前年比 20% 程度の増加が見込まれる。国内市場はモデルチェンジによる受注が堅調で、北米市場も引き続き好調であるほか、東南アジアでも回復の兆しがみられる。一方、一部部品の調達リードタイムが長期化しており、部品確保が課題となっている。価格転嫁も継続して進めている。                                                                                                                                                               |
| 漆器製造業（能登方面）        | 新規受注は引き続き少なく、職人に回る仕事も少ないことから、先行きが懸念される。一方、観光面では石川県のキャンペーンによる効果がみられ、団体ツアーの来訪もあるものの、奥能登ではキャンペーンに参加できている施設が少なく、さらなる対策が必要となっている。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| プラスチック製品製造業        | 取引先業種によって景況感にばらつきがあり、AI 関連は好調であるものの、当業界では AI 関連の取引が少なく、全体としては良好とはいえない状況である。原材料は発注から納品まで時間を要しているものの、以前のような入手困難な状況は解消している。一方、過去の材料不足を踏まえ、年末需要を見越して早期に発注する必要がある、過剰在庫となるリスクも生じている。原材料価格は依然として高止まりしており、中東情勢による原油・物流への影響も懸念される。原材料価格や各種コストの上昇に対し、価格転嫁が十分に進まず、収益確保に苦慮する企業もみられる。価格転嫁により売上高が前年を上回っていても、販売数量が減少している企業もあり、売上高のみでは業況を判断しにくい状況である。また、台風等の影響により観光や消費、物流が停滞するなど、災害による企業活動への影響も懸念される。 |

＜非製造業＞

| 集計上の<br>分類業種 | 具体的な業種                  | 組合及び組合員の業況等                                                                                                                                                                                                 |
|--------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 卸売業          | その他の卸売業                 | 今月度の売上高は前年同月比 76%と減少したものの、月予算は達成した。海外需要は依然として低迷している一方、国内売上はやや回復傾向にある。                                                                                                                                       |
|              | 一般機械器具<br>卸売業           | 住宅市場は低調な状況が続いているものの、非住宅部門は官公需、民間需要ともに比較的堅調に推移しており、特に LED 照明器具の取替えなどのリニューアル需要が継続している。売上高、収益ともに前年水準を維持している。                                                                                                   |
|              | 各種商品卸売業                 | 特に大きな変化はない。                                                                                                                                                                                                 |
| 小売業          | 燃料小売業                   | 売上高、収益ともに悪化している。原油価格の上昇や円安等により原油コストが上昇し、ガソリン販売量の減少や価格競争も重なって、業界景況は悪化傾向にある。雇用人員も減少傾向にある。9 月 17 日からガソリン 1 リットル当たりの補助額が 51 円となり過去最高額となった。補正予算による予算の積み増しが行われたものの、高水準の補助が長期化した場合の継続性が懸念される。                      |
|              | 機械器具小売業                 | 蛍光灯やエアコンは 2027 年問題を背景に販売が増加しており、売上高も前年を上回った。一方、需要増加に伴う品切れが発生しており、希望日に商品を届けられないケースが続いている。                                                                                                                    |
|              | 男子服小売業<br>婦人・子供服小<br>売業 | 9 月中旬以降、気温が 30 度を下回る日が増え、秋物需要が見られるようになった。夏物商品の販売を継続しつつ、早期に秋物商品を投入するなど売場の鮮度確保に取り組んだが、業況は前年同様の水準となった。物価上昇により消費者の価格選択が厳しくなる中、商品の機能や品質に加え、長く使用する価値などを含めた商品提案が求められている。                                           |
|              | 鮮魚小売業                   | 組合事業の売上高、収益ともに前年を上回ったものの、物価上昇により物品価格や棚卸資産の評価額が上昇した影響が大きく、購買者数は前年を下回っている。9 月のシルバーウィークには近江町市場等の観光地で例年以上の観光客がみられ、海鮮の販売も好調であった。一方、底びき網漁の解禁後は天候不良により出漁が少なく、魚の入荷量が少ない状況となった。また、家庭で魚料理をする機会の減少などを背景に、魚食需要の低下もみられる。 |
|              | 他に分類されな<br>い<br>その他の小売業 | 9 月はシルバーウィークの影響もあり、売上高は増加した。一方、10 月以降も物価上昇に伴う値上げが続くことから、今後の売上動向は不透明である。                                                                                                                                     |
|              | 百貨店・総合ス<br>ーパー          | 売上高は前年同月比 104.65%となった一方、客数は 97.03%と減少した。部門別では、ファッションが 103.75%、服飾・生活雑貨が 119.60%、食品が 97.40%、飲食が 114.52%、サービスが 88.84%となった。全体の売上高は前年を上回ったものの、客数は減少しており、物価上昇の影響がみられる。                                            |
|              | 茶類小売業                   | 抹茶価格の高騰やインバウンド需要により、前年に比べ売上高は好調に推移している。仕入価格の上昇分は売上高の増加で吸収している。9 月にはテレビ番組の取材があり、10 月 22 日に放送予定となっていることから、今後の宣伝効果が期待される。                                                                                      |
|              |                         |                                                                                                                                                                                                             |
| 商店街          | 近江町商店街                  | 大型連休期間は盛況となり、増収となった。一方、仕入価格の高騰が続いており、価格転嫁が追い付かないことから、増益には至っていない。今後も原料・資材等の値上げが予定されており、価格転嫁が課題となっている。                                                                                                        |
|              | 白山市商店街                  | 販売価格の上昇により売上高は増加しているものの、仕入価格や人件費等も上昇しているため、収益状況は横ばいまたは悪化している企業もみられる。各業種で仕入価格等の上昇が経営上の負担となっている。                                                                                                              |

|       |                  |                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 片町商店街            | 販売単価の上昇により売上高は増加しているものの、仕入価格や諸経費も上昇しており、収益状況は厳しい。平日は外国人観光客、週末は日本人観光客を含め、多くの来街者がみられる一方、平日と週末で客層に差があり、集客ターゲットの設定が課題となっている。                                                                                                                          |
|       | 堅町商店街            | 来街者数は堅調に推移しているものの、9月は雨天の日が多く、天候が集客に影響した。                                                                                                                                                                                                          |
| サービス業 | 旅館、ホテル<br>(金沢方面) | 9月は前半に厳しい状況もみられたが、五連休に伴う人の移動の活発化により、客室稼働率はホテルで100%近く、旅館でも60%を記録するなど、好調に推移した。                                                                                                                                                                      |
|       | 旅館、ホテル<br>(加賀方面) | 天候不順による予約キャンセルが発生したものの、シルバーウィークの効果により予約は好調に推移し、8月の夏休み需要を上回る早期の予約動向もみられた。消費単価、インバウンド客ともに微増している。一方、平日需要やオフ期需要は依然として弱く、インバウンド需要も著名観光地と比較すると低い状況にある。県外資本による新規店舗の開業で競争が激化する一方、地域の情報発信機会の増加につながる面もみられる。                                                 |
|       |                  | シルバーウィーク期間中は客室稼働率が前年並みに高水準となり、個人消費も前月に比べて増加した。温泉地全体の宿泊実績は前年同期比約123.6%と大幅な増加が見込まれ、新規開業旅館の実績を除いても114.6%と前年を上回った。台湾や韓国などアジア方面からのインバウンド宿泊客が好調に推移した。一方、月を通して雨天が多く、観光客の移動に影響した。                                                                         |
|       | 旅館、ホテル<br>(能登方面) | 入込客数は前年同月比140%、売上高は184%と大幅に増加した。シルバーウィークや能登旅行割が増加要因となった。                                                                                                                                                                                          |
|       | 自動車整備業           | 検査(車検)需要は34,811台で、前年同月比94.0%となった。登録車は91.4%、軽自動車は98.6%とともに前年を下回り、特に登録車の減少が大きかった。新車販売台数は4,895台で前年同月比104.4%となり、6か月連続で前年を上回った。登録車が引き続き好調で、全体の増加を牽引している。                                                                                               |
| 建設業   | 板金・金物<br>工事業     | 職人不足による現場の停滞や材料価格の高騰による建築需要の減少などから、売上高、収益ともに減少している。人手不足による他業種の現場遅延も工事着手の遅れにつながり、現場ストックが増加している。一方、受注が集中する事業所では、下請業者や応援人員を確保することで工事を進め、業績を伸ばしている。                                                                                                   |
|       | 管工事業             | 学校の屋内運動場への空調設備整備や市民センター・公民館等の設備工事など、公共工事の発注が活発化している。一方、配管材価格は平成27年度を100とした指数で約40%上昇しており、利益減少が懸念される。深刻な人手不足や時間外労働規制、職人の高齢化により、復旧・復興工事の施工能力が不足している。中東情勢の影響による資材調達難から工期が延長するケースや、技術者不足により受注が困難となるケースもみられる。また、復興需要を背景に、国・県・市の設備関係公共工事では不調となる案件が続いている。 |
|       | 一般土木建築<br>工事業    | 8月の建設工事受注高は、民間土木が元請112%、下請75%、民間建築が元請61%、下請512%となった。官公庁工事は、土木が元請157%、下請73%、建築が元請364%、下請250%となった。民間土木は堅調に推移し、官公庁土木は持ち直している一方、民間建築は依然として低調で、官公庁建築は前年を大幅に上回る発注が続いている。                                                                                |
|       | 一般土木建築<br>工事業    | 主な業種である公共事業について、当初の年間予算額は昨年度と同程度となっている。一方、令和6年能登半島地震の復旧・復興に向けた金沢市内の災害復旧工事が本格化しており、今後の工事受注高は増加傾向となることが見込まれる。                                                                                                                                       |
| 運輸業   | 一般貨物自動車<br>運送業①  | 運行情、売上高ともに前年同月比約10%減少した。燃料価格が1リットル当たり11円上昇したものの、燃料コストは前年と同水準となっており、収益も売上高と同様に減少した。                                                                                                                                                                |

|  |                         |                                                                                 |
|--|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>一般貨物自動車<br/>運送業②</p> | <p>売上高は前年同月比 12.7%減少した一方、前月比では 19.3%増加し、8 月の落ち込みを一部カバーした。全体としては厳しい状況が続いている。</p> |
|--|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|